

1.講座名	水辺のレスキュー講習会		
2.開催日時	2016年（平成29年）11月14日		
3.開催場所	北九州市立玄海青年の家		
4.河川名	頓田貯水池		
5.参加人数	子ども	0名	、 大人 16名、 指導者 2名
6.講座内容	（各カリキュラム毎に ①カリキュラム名称・②概要・③講師名を記載し、写真を添付。1日の活動を総括して、最後に考察を記載。）		
科目名：オリエンテーション			
講師名：西胤 正弘			
概要： 講師紹介の後、一日の流れを確認。 「川に学ぶ体験活動協議会(RAC)」についての紹介を行いました。			
科目名：事故事例を知る			
講師名：西胤 正弘			
概要： 自然体験活動での事故事例を挙げながら、水辺の活動に潜むリスクについて学びました。特に、人間は水中で呼吸することができないために、即、重大事故につながる可能性が高いことや、水辺に潜む危険について、イラストや動画を用いて解説し、事故事例を知ることが安全な活動を進めるためになぜ必要なのか、事故を未然に防止する方策を講じる重要性について講義を進めました。			
科目名：スローロープの使用方法について			
講師名：西胤 正弘			
概要： レスキューの基本はシンプル・安全・素早さの3つであることを確認し、落水した人を見つけた場合にどうやって助けることができるか、意見を出し合いました。道具を使ったレスキューのリスク、コンタクトレスキューの危険性について紹介。また、ロープを使ったレスキューは、投げる側はもちろん、レスキューされる側も使い方を知らなければ重大事故につながることを、ロープの収納も練習を重ねて素早くできる必要があるなど、練習を重ねていないと使えない道具であることを確認しました。			

科目名：スローバックレスキューの実習

講師名：西胤 正弘、砂田 絵里

概要：

まず、バディでの軽いキャッチボールを実施した後、20m近く離れた相手に正確に投げられるかを練習し、さらに、ロープを投げた後、スパゲティロールにして再度レスキューする方法、バックに水を入れてレスキューする方法なども実習しました。実際、水に濡れた状態のロープがいかに重く、扱いづらいかなどを体験することができました。



科目名：グループワーク

講師名：砂田 絵里

概要：

ハイポサーミアを検証するビデオ映像を視聴した後、なぜ事故が起きたのか、どうすれば防げたのか、グループで意見を出し合い、全体で共有していきました。その上で、活動を安全に進めていくためには、トレーニングを受けた指導者、スタッフの存在が大切であること、自分自身のスキルアップと判断力の醸成が大切になってくることを確認しました。



科目名：ふりかえり

講師名：砂田 絵里

概要：

水辺の活動指導者はもちろん、自然体験活動に係わる指導者は、日々、技術や知識の研鑽を重ね、体得していくことが必要であること、事故事例や自らのヒヤリハットを振り返りながら、危険を予見、回避していく積み重ねが大切であることを確認して終了しました。



考察	<p>・今回も、九州・四国の水辺で活動する青少年施設や団体から、多数のご参加をいただきました。今回もあらためて、水辺で活動するに際して考えておくべきリスクとその回避方法に関する知識や技術を、こうして共有することの重要性を感じました。この講習会を通じて技術や情報を持ち帰っていただき、「マニュアル」の見直しなど、参加者はもちろんスタッフにとっても「安全で楽しい活動」の広がりを願いつつ、今後さらにこの取組みの内容を発展させながら継続していくことが大切だと考えました。</p>
----	--